２０２５年度　地域連携推進会議　議事録

開催日時　２０２５年１１月１８日（木）１５：００～１６：００
開催場所　光生舎会議室
参加者　　＜地域参加者＞
　赤平市社会福祉事務所長
　赤平市社会福祉協議会事務局長
　赤平市錦町　町内会長
＜ご家族参加者　各１名＞
　クリーナース　　ワークショップ
　エルム　　GH メイプル
＜施設利用者参加者　各１名＞
　クリーナース　　ワークショップ
　エルム　　GH メイプル
＜事務局（光生舎職員）＞
　施設長：ク）鈴木光明、ワ）谷亨、GH）千葉孝二、エ）佐藤幹
　事務局：支援員２名

議題１　地域連携推進会議　前回振り返り
　パワーポイント資料をもとに、地域連携推進会議や、光生舎施設の運営についての概要説明をしたことやクリーナースの見学を実施した事の振り返り、地域連携推進会議の目的の確認等を実施。

議題２　利用者の状況
　パワーポイント資料をもとに、光生舎の基本理念や各施設ごとの利用者の利用人員数や、各利用者の出身地、作業時間や作業工賃・平均工賃、日常の生活の様子やレク活動についての状況を紹介。

議題３　グループホームメイプル　概要説明　見学
　グループホームの概要説明と、実際にグループホーム２棟（あかり、えにし）の見学を実施。

議題４　その他

質疑応答の際、赤平市社会福祉事務所長高橋様より、そうだんのていく等、放課後等デイサービス等利用している児童が実際に光生舎サービスの利用に繋がっているケースはどれくらいあるかといった質問があった。

現状、さほど多くはないが、ケースとして 1～2 件は利用に繋がっており、今後さらに増えてくると思われる事を伝え、納得されている。児童が放課後等デイサービスの利用後、学校卒業後等の受け皿として、これからも精力的に取り組んでいただきたいとのお話をいただいた。

こちらからは、空知管内の養護学校訪問を行なっており、赤平市近隣の市町村出身の生徒へのアプローチや、実習の受け入れ、卒後の受け入れも積極的に行なっていく事。また、今年度は養護学校教諭の他、保護者向けにも事業所の見学会を企画・実施し、広く生徒から選んでもらえる施設づくりに努めている事も説明している。

2025年度
光生舎　地域連携推進会議

社会福祉法人　北海道光生舎
光生舎　クリーナース
光生舎　ワークショップ
光生舎　エルム・ソーイング
グループホームメイプル

本日のスケジュール

15:00　オリエンテーション
　　会議構成員の紹介

15:05　地域連携推進会議
　　①前回の振り返り
　　②利用者状況
　　③GHメイプル　概要説明

15:40　光生舎　グループホームメイプル　見学
16:00　終了予定

地域連携推進会議　構成員

＜地域の関係者＞

・赤平市社会福祉事務所長　　高橋　脩　　氏
・社会福祉協議会事務局長　　浅倉　卓　　氏
・赤平市錦町　町内会長　　山口　直樹 氏

＜利用者のご家族＞

・クリーナース 二俣　憲一　氏
・ワークショップ 瀧波　孝之 氏
・エルム　稲見 和彦・政子氏
・GHメイプル　南澤　弘美 氏

＜施設利用者＞

・クリーナース 明瀬　秀明 氏
・ワークショップ 國井　将人 氏
・エルム　中村さなえ 氏
・GHメイプル　高森　義則 氏

＜施設関係者＞

・施設長　ク）鈴木 光明、 ワ）谷 亨、 GH）千葉 孝二　、エ）佐藤 幹
・事務局　山本 喜隆、 高橋 一光、

①前回の振り返り

・地域連携推進会議の概要説明

・光生舎施設運営の概要説明
　　光生舎サービス事業所説明

・施設見学
　　障害者支援施設　光生舎クリーナース見学

前回の振り返り①
地域連携推進会議目的とは

地域の関係者を含めた外部の方が参画して、施設と地域が連携し、４つの目的を達成していく。

①利用者と地域の関係作り。

②地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進。

③施設等やサービスの透明性、質の確保。

④利用者の権利擁護

前回の振り返り①
地域連携推進会議を行うことで

・地域連携推進員が施設を訪問する事で、施設運営の現場を直接確認する事が可能な仕組みへ。
・専門家でない観点から、気づきが得られる事。
・事業所のサービスの質が担保され、支援を受ける利用者にとっても良い環境へ。
・地域と連携する事で、利用者に関心と理解が深まり地域での生活や居住場所への移行。

利用者の皆さんの満足度向上へと繋がる。

②-1　利用者の状況

＜2025年度　本舎施設基本理念＞

本舎施設は、「先進的」「創造的な」運営で、利用者の意向を尊重し「働く・暮らす」をより豊かにするために、総合的な障害福祉サービスを提供する。

＜創業時から光生舎が大切にしている事＞

障害があっても一般社会に近い生活を→「自立」

「自立」＝親から離れる・社会生活・働く・賃金・結婚・お金を使う・自分で選択・自分で行動・・・色々ある。

どれか一つでもいい　自分にあった自立をしてほしい

②-2　利用者の状況

＜利用者状況＞

入所・GH施設	施設定員	人　員			平均年齢	最高年齢	最小年齢	障　害　別		
		男性	女性	合計				身体	知的	精神
クリーナース	30名	18名	7名	25名	65.8歳	82歳	55歳	15名	10名	0名
ワークショップ	30名	26名	2名	28名	55.8歳	88歳	24歳	16名	10名	2名
エルムソーイング	30名	18名	10名	28名	38.1歳	72歳	19歳	0名	27名	1名
GHメイプル	78名	56名	19名	75名	43.8歳	73歳	22歳	8名	64名	3名
合　計	176名	117名	38名	155名	50.7歳	88歳	19歳	39名	111名	6名

②-3　利用者の状況

＜利用者の出身地＞

・空知管内：赤平、滝川、砂川、歌志内、岩見沢、深川、芦別、美唄、三笠、秩父別、奈井江、北竜、新十津川、浦臼、由仁、

・石狩・後志：札幌、石狩、小樽、

・道南方面　：苫小牧、伊達、

・道東方面　：帯広、津別、清水町、音更、士幌、広尾、釧路、

・道北方面　：旭川、東川、増毛、羽幌、美深、音威子府、北見枝幸、中頓別、利尻、

皆さん親元を離れ全道各地より利用して頂いている

②-4　利用者の状況

＜利用者作業＞

・作業時間　基本的には1日8時間　（他から比べると長時間）

（障害、高齢等　能力に合わせ作業時間も短縮も実施）

・能力に合った適材適所、多能工、スキルUPへの取り組み

・自立訓練→就労移行→B型→A型　ステップUP（本人希望）

・作業工賃　当初：月15,000円から　毎年10月能力査定

・月額平均工賃

就労継続支援B型　光生舎　**61,827円**　　全道26,675円

就労継続支援A型　光生舎**177,605円**　　全道87,766円

（最賃×作業時間数）（障害年金を合わせると23万円以上）

製品を作る：安かろう悪かろうではなく、品質が良く適正料金

良い製品→工賃UP　　利用者社会貢献→高工賃へ繋げる

②-5　利用者の状況

＜日常生活の様子＞

起床介助	6:30			
朝　食	7:00			
作業開始	8:00			
休　憩	10:00	14:45	15分間	
昼　食	12:00	1時間		
作業終了	17:30			
夕　食	17:30			

余暇時間	18:00	入浴（毎日）
		整容　掃除　洗濯
		買い物
		ホームバー(月・水・金)
		ゲーム　スマホ
門限	22:00	
消灯・就寝	23:00	

②-6　利用者の状況

＜日常生活の様子＞

・プライバシーの保護

入所施設は2人部屋から完全個室化

・施設管理ではなく、自主性・社会性を重んじた生活へ

外出（買い物、仲間と遊びに、休日遠方外出など）

お小遣い制～週間小遣3千～1万円・月間小遣数万円

（自分で働いたお金をある程度自由に）

自分で考えた生活スタイル（スマホ、ゲーム、飲酒等）

これが出来ているのは昔からの住民の皆さんの理解・協力

②-7　利用者の状況

＜行事･レク活動＞

・スポーツ大会参加（ソフト、Tボール、パークゴルフ、卓球等）
・観戦行事（プロ：野球、バスケ、サッカー等）
・思考行事（料理、カラオケ、釣り、ボーリング、
・会食行事（野外焼肉、鍋会食、誕生者会食、クリスマス）
・希望旅行、周年旅行（道内、道外、海外への旅行）
　　来年は光生舎創立70周年　旅行を企画中

仕事ばかりではなく、楽しんでいただけるイベントを利用者と一緒に考え活動。

＜まとめ＞

・現在の障害者福祉の状況としては、利用者の選択支援をどのように取り組んでいるのか。記録や個別支援計画等に取り込むことになっている。

・理由としては「社会生活を目指す中で、利用者本人が望んで選択を考えた施設支援が行われているか」との事である。

・光生舎は創業当時から「自立」を重んじて活動してきた法人であり、そこには、利用者の意思が反映されて歩んできた。

・現代の私たちはこれを受け継ぎ、利用者のサービス向上へ繋げなければならない。

③グループホームメイプル概要

＜錦町地区＞

・本舎施設周辺　7カ所　（3～6名のグループ）

・新築2棟、中古住宅改修5棟

GHステップ　1カ所3名（女性）

自炊等なるべく自分たちで生活し、将来一人暮らしを目指す。

現在一般企業へ就労（トドック、エース、法人内）

＜若木町地区＞

・元光生食品跡地に建設　6カ所（6名のグループ）

・朝・夕送迎バスを出して通勤

グループホーム見学

錦町地区

GH 「あかり」「えにし」 見学